

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前短期大学 所属：ライフデザイン総合学科 名前：島崎 千江子 作成日：2024年12月6日

1. 教育の責任

「ライフデザイン総合学科」という多様な領域を教育研究の対象とし、現代社会を生き抜くための実務的教養を学修し、なりたい自分になるための人生設計と自律的行動のできる人材を育成する。特にファッションビジネスの正しい知識を伝授することで社会変化の中でも自信をもって行動できる人材の育成に努めている。

「ライフデザイン」（基本科目（必修科目））

「ライフデザイン（再）」（共通教育科目（必修科目） 秋学期 2 単位）

「フォーラム A」（【2021 年度入学生】基本科目（必修科目））

「フォーラム B」（【2021 年度入学生】基本科目（必修科目）【2020 年度入学生】共通教育科目（必修科目） 秋学期 1 単位 名）

「ゼミナール A」（専門教育科目（必修科目） 春学期 1 単位）

「ゼミナール B」（専門教育科目（必修科目） 秋学期 1 単位）

「アパレル商品の知識」（ファッションビジネス A（コース選択科目） 春学期 2 単位）

「ファッションコーディネート」（ファッションビジネス A（コース選択科目） 春学期 2 単位）

「ファッションビジネス実務演習」（ファッションビジネス B（コース選択科目） 秋学期 2 単位）

2. 教育の理念

「情操豊かな教養ある人格の完成を目指した学園創立の精神に基づき、専門の学芸を教授研究し、職業および实际生活に必要な能力を育成し、もって社会の発展に貢献し得る人材を教育することを目的とする。」という本学の教育目的をふまえ、必修科目においては全ての学生に社会人基礎力を身につけ、個々の学生が多様な社会に対応できる能力を養うことを私の教育理念としている。また、専門科目ではファッションビジネスを主として、業界における正しい認識を理論的に理解することで実践力を高める必要性を伝えたい。

3. 教育の方法

カリキュラムポリシーにに掲げる、6つの能力と各科目の関係を基本とし、各科目は下記の通り。

「ライフデザイン」では、学生個々の人生設計に参考になるよう、様々な事例をあげて、学生自らがライフデザインを構築していけるような教材を選定している。「フォーラム A」では問題集や読書を通じて基礎学力の向上を目指している。プレゼンテーションの機会も設けて人前で話すことをトレーニングしている。「ゼミナール A・B」では、自らの課題発見や解決力を養うため、できるだけ学生個々の興味や関心を重視した研究内容を指導している。その中で失敗しても経験として身につくよう自主的な研究活動に導いている。「アパレル商品の知識」は実生活に役立てることからビジネスに活用できることまでを実習や実験で体得するために、衣服の材料から取り扱い方法までの一連について衣服や素材の実物を使用した実体験を通じて理解させている。また、商品企画などでは実際に企画したものを作成しカタログまで完成することで具体的な指導をしている。「ファッションコーディネート」ではファッションビジネス業界に必要な売場の商品コーディネートやファッションスタイルの提案力を修得するために企業のコンテストに作品を出品し表彰を受けている。「ファッションビジネス実務演習」は、実践的な知識（販売業務など）を身につけるために協定企業との連携による企画書制作を行い、企業人からの評価をフィードバックさせることで意欲を向上させている。授業では、復習を兼ねた小テストと課題を適宜合わせて行い学生の理解をチェックしながら進めている。書籍や資料を紹介するなど予習についても促している。その他、関連資格の取得を目指す学生に対しては、授業での支援だけでなく授業外での補習や個別指導を行っている。

4. 教育の成果

(1) 授業見学・授業アンケート等の内部評価

授業評価アンケートおよび、c-pos は講義と演習実習での全ての科目で平均を上回る評価となった。特にコロナ禍を経て学生自身の

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前短期大学 所属：ライフデザイン総合学科 名前：島崎 千江子 作成日：2024年12月6日

学習への意欲が高くなったように感じている。検定試験の受験者数も増加し、就職に向けた意識も高くなっている。

(2) 学会・研究会、高大連携、産学連携等における外部評価

協定高校との独自授業を実施しており、評価もよく高校からのニーズも高まっている

アパレル企業とのインターンシップ連携を継続中。

「業界におけるサステナビリティの事例研究」をファッションビジネス学会、マーケティング論研究会において研究継続中。「ファッションビジネスにおける EC 化による消費者意識と現状についての研究を行う予定。

5. 改善への努力と今後の目標

パソコン必携化に伴い、授業ごとにパソコンを使用する課題や資料、内容に工夫を行っている。授業内容はもちろん、画像処理におけるパソコンの操作の指導も行うが、学生のスキルの差によって手がかかることもあり常に指導方法を工夫している。

多様な学生の理解度を確認しながら進め、授業外での質問の機会を増やした。また、グループワークなど、学生間で話し合いをさせて学生自身の課題解決力を養うなど継続課題とする。

【添付資料】

「ライフデザイン」PowerPoint 教材および配布資料

「フォーラム A・B」配布資料

「ゼミナール A・B」配布資料

「アパレル商品の知識」PowerPoint 教材および配布資料・閲覧教材

「ファッションコーディネート」PowerPoint 教材および配布資料

「ファッションビジネス実務演習」PowerPoint 教材および配布資料